



## 4. 活用・整備のイメージ案 - Stage 1

### 目的

- 宮跡の大きさを体感していただく
- 発掘調査でまだわかっていない（発掘調査だけではわからない）遺構等について、検証する場とする

### 概要

- 堀の四隅部分の構造を模式的に表現する
- 取り外し可能な仮設物により、宮跡の領域を示す内郭外周の表示を行う

### 具体的手法

- 内郭の四隅に、柱跡の表示を兼ねたコンクリートの基礎（常設）を設置する
- 四隅の基礎の上に仮設柱（パイプなど）を立て、ロープなどを張ることで、宮跡の領域や外周の堀の高さを明示する
- 通常は基礎部を柱跡表示として活用し、イベント時等に仮設柱を設置する

### 特徴・効果等

- 宮跡の空間の広がりイメージしやすくなる
- 遠方から見て、宮跡の存在が分かりやすくなる
- 夜間のイベント時には、ライトやイルミネーションによる表示にも活用する

